



# ひらどだい

令和2年度 学校だより 12月号 横浜市立平戸台小学校 校長 藤巻 孝之

# 12月

今を感じ、今を楽しむ

校長 藤巻 孝之

異例尽くしの令和2年も残すところひと月となりました。新しい生活習慣、新しい生活様式もすでに「日常」となった感があります。引き続き、感染症を正しく恐れながらも、有意義な毎日を築こうとする前向きさを忘れたくはありません。

高く澄んだ青空、赤や黄色に彩られた木々。素晴らしい舞台が整った11月は、本校にとって大変活動的で、積極的で、感動的な一か月となりました。4年生、5年生の野島宿泊体験学習に始まり、1年生、2年生の保土ヶ谷児童遊園地への遠足、3年生の消防出前授業に6年生の日光修学旅行と、秋を満喫しながら、教室では味わえない、出会えない、気づかない、バラエティーに富んだ学びを実施することができました。

また、横浜市が2022年度までに全校実施を目標に掲げている学習ボランティア組織「地域学校協働本部」を「台小サポーターズ」として本校に設立することができました。日々多くのボランティアの方々が来校され、学校全体が活気づいています。校庭で植栽をしている中、校舎内に目をやると図工室で版画の支援、別の日には教室前のホールでドングリ遊びのお手伝い、外の畑では野菜の種まきと、子どもたちと一緒に楽しみながら学びをサポートしてくださっています。

「秋を満喫」と言えば給食もしかり。里芋、柿、鮭、栗、キノコ、大根、白菜などなど、旬を迎えた数々の食材が調理員さんたちの技と愛情により、子どもたちの食欲と笑顔を膨らませていました。口いっぱい給食をほおぼる姿は大変ほほえましく、うれしく思います。

春には実施困難かと思われた「本物体験」が一気に推進され、子どもたちの表情がますます輝いています。子どもたちは一瞬一瞬の出来事に敏感に反応し、その都度感動を味わいます。常に心をはたらかせているため、大人に比べて時間の流れが緩やかで一日が長く感じられるそうです。だからこそ、多くの場面で、多くの方々とかかわり合う中で、今を感じ、今を楽しみ、表情を輝かせるのだと思います。年末年始には子どもたちが楽しみにしている催しもあるでしょう。例年通りにはいかないこともあると思いますが、悲観するばかりではなく、今できることから今を感じ、今を楽しんでほしいと思います。

12月。今年を締めくくる月は人権週間でスタートします。私の口癖「元気が一番」。みんなが「元気」でいられるためには何を大切にするとよいのか、子どもたちへの問いかけから始めたいと思います。またGIGAスクール構想として、モバイル端末を活用したりリモートによる学校家庭間の連絡や学習の準備が本格的にスタートします。刻々と変化する時代ですが、決して子どもたちの姿を見失うことがないように、引き続き連携、協働しながら皆様とともに素晴らしい令和3年を迎えたいと思います。